

「アルコール依存症の再入院患者を対象とした再飲酒予防トレーニングの治療評価」

a) 背景および目的

アルコール依存症の入院治療プログラムは集団勉強会と小グループでの認知行動療法を主軸としています。久里浜医療センターの男性患者様の退院後1年間の断酒成功率は入院回数で異なり、初回入院では約50%ですが、再入院を繰り返すほど成功率が低下していきます。そこで2003年から再入院男性の方を対象に米国NIHを中心とした研究グループが作成した対処技術トレーニング(coping skills training, CST)とキュー暴露トレーニング(cue exposure treatment, CET)を組み合わせた再飲酒予防トレーニングを行ってきました。CST、CETの有効性は欧米諸国では確立していますが、本邦での治療成績の評価はこれからです。本トレーニングでは治療の導入時に治療参加に関して、退院時に治療成績を2週毎1年間26通の往復手紙のアンケートで評価することに関して同意を文書いただいております。本研究ではこの臨床情報に基づきトレーニングの退院後1年間の治療成績を評価いたします。

b) 研究対象および選定方法

2003年-2011年に久里浜医療センターで再飲酒予防トレーニングを受けた男性再入院患者様を対象とします。

c) 研究方法

手紙の返信数、手紙に記載された飲酒日数と断酒に役立ったCST、CETの項目の情報から治療成績を評価し、基礎データとしてカルテに記載された年齢、入院回数、生活歴、飲酒喫煙習慣、合併症との関連でどのようなひとにどのようにCST、CETが有効化を検討します。データは解析前に匿名化します。

この調査では、上記の情報をカルテから活用させていただきますが、集計、解析の際に匿名化して情報を扱うこととし、患者様の個人情報に厳重に保護し、患者様に不利益が生じないように配慮いたします。この調査によって得られた情報は、研究の目的以外には使用いたしません。カルテのみの調査であり、電話や手紙等で患者様に直接、情報をうかがうことはありません。

対象に該当する患者様で、この研究について疑問、または情報提供拒否のご意見がございましたら、下記の研究代表者まで、お知らせください。ご連絡がない場合には、貴重なデータとして本研究に活用させていただきます。

研究期間：2012年6月-2013年6月まで

久里浜医療センター倫理委員会：2012年6月21日承認

研究代表者：国立病院機構久里浜医療センター 臨床研究部長 横山 顕